

品目	規格・単位	薬価	薬価基準収載 医薬品コード	一般名	会社名*1	効能・効果	用法・用量*2	分類	規制	発売予定
<内用薬> アクトネル錠75mg ベネット錠75mg	75mg 1錠 75mg 1錠	2,945.50 2,945.50	3999019F3029 3999019F3037	リトロン酸ナトリウム 水和物	味の素=エーザイ 武田	骨粗鬆症	成人にはリトロン酸ナトリウムとして 75mgを月1回、起床時に十分量(約180mL)の水とともに経口投与する。なお、服用後少なくとも30分は横にならず、水以外の飲食並びに他の薬剤の経口摂取も避けること。	3999	劇 処方	2月28日 2月28日
アフィニトール分散錠2mg アフィニトール分散錠3mg	2mg 1錠 3mg 1錠	5,376.30 7,867.70	4291023X1026 4291023X2022	エパロリス	ハルテイス	結節性硬化症に伴う上衣下巨 細胞性星細胞腫	エパロリスとして3.0mg/m ² を1日1 回、用時、水に分散して経口投与 する。なお、患者の状態やトリア 濃度により適宜増減する。	4291	劇 処方	2月22日
アメパロモカプセル250mg	250mg 1カプセル	431.90	6419004M1024	パロマイシン硫酸塩	ファイザー	腸管アメパ症	成人には、パロマイシン硫酸塩 1500mg(力価)を1日3回に分けて 10日間、食後に経口投与する。	641	処方	4月12日
エリキユース錠2.5mg エリキユース錠5mg	2.5mg 1錠 5mg 1錠	144.90 265.20	3339004F1029 3339004F2025	アピキサン	ブリistol	非弁膜症性心房細動患者にお ける虚血性脳卒中及び全身性 塞栓症の発症抑制	成人にはアピキサンとして1回5mg を1日2回経口投与する。 なお、年齢、体重、腎機能に応じ て、アピキサンとして1回2.5mg1日 2回投与へ減量する。	3339	処方	2月26日
エルカルチンFF内用液10%	10% 1mL	70.40	3999033S1024	レボカルチン	大塚	カルチン欠乏症	成人には、レボカルチンとして、1日 1.5~3g(15~30mL)を3回に分割経口投与する。なお、患者の状態 に応じて適宜増減する。 小児には、レボカルチンとして、1日体重1kgあたり25~100mg(0.25~ 1mL)を3回に分割経口投与する。なお、患者の状態に応じて適宜増 減する。	3999	処方	2月26日
コレアジン錠12.5mg	12.5mg 1錠	385.40	1190021F1025	テトラベナジン	アルフレッサファーマ	ハンチントン病に伴う舞踏運動	成人にはテトラベナジンとして1日量 12.5mg(12.5mgの1日1回投与)から経口投与を開始し、以後症状を 観察しながら1週毎に1日量として12.5mgずつ増量し、維持量を定め る。その後は、症状により適宜増減するが、1日最高投与量は 100mgとする。 なお、1日量が25mgの場合は1日2回、1日量が37.5mg以上の場合には 1日3回に分けて投与することとし、1回最高投与量は37.5mgと する。	119	劇 処方	2月22日
ディレグラ配合錠	1錠	62.00	4490100F1021	フェキソフェナジン 塩酸塩 ・塩酸ブソイト エフトリン	サノフィ	アレルギー性鼻炎	成人及び12歳以上の小児には1 回2錠(フェキソフェナジン塩酸塩として 60mg及び塩酸ブソイトエフトリンと して120mg)を1日2回、朝及び夕 の空腹時に経口投与する。	449	劇 処方	2月28日
トビエース錠4mg トビエース錠8mg	4mg 1錠 8mg 1錠	190.90 286.40	2590015G1021 2590015G2028	フェテロジン フル酸塩	ファイザー	過活動膀胱における尿意切迫 感、頻尿及び切迫性尿失禁	成人にはフェテロジンフル酸塩として 4mgを1日1回経口投与する。 なお、症状に応じて1日1回8mgま で増量できる。	259	処方	3月15日
ホスリボン配合顆粒	100mg 1包 (リンとして)	68.70	3229103D1020	リン酸二水素 ナトリウム一水和物 ・無水リン酸水素 二ナトリウム	ゼリア新薬	低リン血症	リンとして1日あたり20~40mg/kg を目安とし、数回に分割して経 口投与する。以後は患者の状態 に応じて適宜増減するが、上限 はリンとして1日あたり3,000mgと する。	322	処方	3月4日

品目	規格・単位	薬価	薬価基準収載 医薬品コード	一般名	会社名*1	効能・効果	用法・用量*2	分類	規制	発売予定
<内用薬> マラロン配合錠	1錠	484.30	6419101F1020	アトバコン・ プロクアール塩酸塩	グラクソ・ スミスクライン	マリア 【治療】成人には1日1回4錠(アトバコン/プロクアール塩酸塩として1000mg/400mg)を3日間、食後に経口投与する。 小児には体重に応じてアトバコン/プロクアール塩酸塩として250mg/100mg(1錠)~1000mg/400mg(4錠)を1日1回3日間、食後に経口投与する。 体重別の投与量は、下記のとおりである。 11~20kg : 250mg/100mg (1錠) 21~30kg : 500mg/200mg (2錠) 31~40kg : 750mg/300mg (3錠) >40kg : 1000mg/400mg (4錠) 【予防】成人及び体重40kgを超える小児には1日1回1錠(アトバコン/プロクアール塩酸塩として250mg/100mg)を、マリア流行地域到着24~48時間前より開始し、流行地域滞在中及び流行地域を離れた後7日間、毎日食後に経口投与する。		6419	劇 処方	2月22日
ミニリンメルトOD錠60μg	60μg 1錠	117.30	2419001F3026	デスモプレシン酢酸 塩水和物	フェリング・ファーマ =協和発酵キリン	中枢性尿崩症	デスモプレシンとして1回60~120μgを1日1~3回経口投与する。投与量は患者の飲水量、尿量、尿比重、尿浸透圧により適宜増減するが、1回投与量は240μgまでとし、1日投与量は720μgを超えないこと。	2419	劇 処方	3月25日
<注射薬> エルカルチンFF静注1000mg	1,000mg5mL 1管	934.00	3999436A1025	レボカルチン	大塚	カルチン欠乏症	詳細は添付文書をご覧ください。	3999	処 方	2月26日
シムジア皮下注200mg シリンジ	200mg1mL 1筒	71,297.00	3999437G1022	セルトリスマブヘゴル (遺伝子組換え)	UCB=アステラス	既存治療で効果不十分な関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む)	成人にはセルトリスマブヘゴル(遺伝子組換え)として、1回400mgを初回、2週後、4週後に皮下注射し、以後1回200mgを2週間の間隔で皮下注射する。 なお、症状安定後には、1回400mgを4週間の間隔で皮下注射できる。	3999	劇 処方	3月7日
トリーバ注 ペンフィル トリーバ注 フレックスタッチ	300単位 1筒 300単位 1キット	1,796.00 2,546.00	2492419A1029 2492419G1021	インスリン デゲルテカ (遺伝子組換え)	ノボ	インスリン療法が適応となる糖尿病	詳細は添付文書をご覧ください。	2492	劇 処方	3月7日
ナーブロック筋注2500単位	2,500単位0.5mL 1瓶	28,902.00	1229406A1022	B型ボツリヌス毒素	イーザイ	痙性斜頸	詳細は添付文書をご覧ください。	1229	生 物 毒 処 方	3月27日
ビデュリオン皮下注用2mg	2mg 1キット (懸濁用液付)	3,486.00	2499411G3029	イクセナト	アストラゼネカ	2型糖尿病 ただし、食事療法・運動療法に加えてSGLT2阻害剤、ビッグuanid系薬剤及びチアゾリジン系薬剤(各薬剤単独療法又は併用療法を含む)による治療で十分な効果が得られない場合に限る。	成人には、イクセナトとして、2mgを週に1回、皮下注射する。	2499	劇 処方	4月以降

品目	規格・単位	薬価	薬価基準収載 医薬品コード	一般名	会社名*1	効能・効果	用法・用量*2	分類	規制	発売予定
<外用薬> ①ニュープロパッチ2.25mg ②ニュープロパッチ4.5mg ③ニュープロパッチ9mg ④ニュープロパッチ13.5mg	2.25mg 1枚 4.5mg 1枚 9mg 1枚 13.5mg 1枚	270.30 416.50 641.80 826.50	1169700S1025 1169700S2021 1169700S3028 1169700S4024	ロコチン	大塚	①②パキンソン病、中等度から高度の特発性レストレスレッグス症候群（下肢静止不能症候群） ③④パキンソン病	<パキンソン病>成人にはロコチンとして1日1回4.5mg/日からはじめ、以後経過を観察しながら1週間毎に1日量として4.5mgずつ増量し維持量（標準1日量9mg～36mg）を定める。なお、年齢、症状により適宜増減できるが、1日量は36mgを超えないこと。本剤は肩、上腕部、腹部、側腹部、臀部、大腿部のいずれかの正常な皮膚に貼付し、24時間毎に貼り替える。 <中等度から高度の特発性レストレスレッグス症候群（下肢静止不能症候群）>成人にはロコチンとして1日1回2.25mg/日からはじめ、以後経過を観察しながら1週間以上の間隔をあけて1日量として2.25mgずつ増量し維持量（標準1日量4.5mg～6.75mg）を定める。なお、年齢、症状により適宜増減できるが、1日量は6.75mgを超えないこと。本剤は肩、上腕部、腹部、側腹部、臀部、大腿部のいずれかの正常な皮膚に貼付し、24時間毎に貼り替える。	1169 119※	劇 処方	2月26日

*1 会社名中、2社以上の表記については、前社が製造販売承認取得会社、後社は販売会社であることを示します。

*2 一部省略してありますので詳細は添付文書等をご確認下さい。

※ニュープロパッチ9mg, 13.5mgを除く